

「堺・仙台文化交流」

友好“象”徴の半世紀 “浜子”がつなぐ絆

元堺水族館付設動物園飼育担当
山野広光

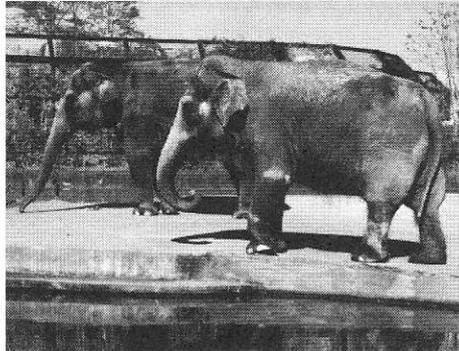


大浜公園で開催される夏の風物詩・伝統行事「堺大魚夜市」（七月三十一日）の舞台で、ここ数年前から堺と仙台をつなぐ「すずめ踊り」が演じられているのを知って、感慨ひとしものがあります。

今から四八年前、昭和三八年（一九六三年）一月二日のことでした。六年間住み慣れた堺水族館付設動物園（大浜公園内）から、浜子ちゃん、の愛称で堺の子供たちに親しまれていたインド象、浜子（メス）が、晴れて仙台市立自然動物園に養子縁組に恵まれ贈られて行きました。

仙台市立自然動物園では、浜子、は、トシコ、と名前を変えて二歳年下の妹分のインド象、ヨシコ、さんとともに仙台の子供たちに愛嬌をふりまいたそうです。

堺には、明治三六年（一九〇三年）、第五回国内



左より、ヨシコ、トシコ（旧浜子）
仙台市八木山動物園ホームページより
平成17年10月14日撮影

されてきました。

昭和三二年（一九五七年）一〇月、花まつりの主役として「花まつり奉賛会」が和歌山自然動物園から当時二歳だった子供象を譲り受けて堺水族館付設動物園へやってきました。水族館のある大浜の町名にちなんで「浜子」と名づけられ、堺市民に「浜子ちゃん」と呼ばれ親しまれておりました。昭和三六年九月一六日、第二室戸台風で老朽化していた水族館が被災し、さらに停電によって魚

槽の水の浄化装置が動かなくなり六〇種類約一〇〇匹の海水魚が全滅しました。やむなく、九月二日より水族館は休館の憂き目に会いました。さらに折悪く、昭和三三年から始まった堺港臨海工業地帯造成工事のため多くのたくましく堺人を育ててきた大浜海水浴場が閉鎖され、水族館への客足が減り続けていきました。水族館の休館とともに付設動物園の動物の処置が問題となりました。象の、浜子、ラクダ夫婦、花鹿、アシカ四頭、猿二匹はそのまま残すことになり、トカラ馬親子三頭はじめ鳥類等は売却し、アオウミガメ二匹とタイマイ一匹は九月三〇日に諏訪森海岸から別れの酒を振舞って海へ放ちました。

ちょうどその時、仙台市立動物園で自然動物園として拡張する計画があることが分かり、東北地方では珍しかった象、浜子、を喜んで受け入れていただけることになり、養子縁組の話がとんとん拍子でまとまりました。一〇月一九日には、仙台市立動物園から井筒金造園長、獣医師および調教師の三人が堺へ迎えに來られました。

別れを前に、一〇月一九日には、象舎園の前で地元の市（いち）小学校と英彰小学校（すずめ踊り）を踊った石工衆たちのまち「旧石屋町」、「旧石切町」を含む校区）の児童によるお別れ写生会が行われました。

昭和三八年一〇月二一日、午前九時に堺水族館から大型トラックに乗せられ、堺市役所に立ち寄り、当時の河盛市長、中田市議会議員、山口観光協会長および「花まつり奉賛会」代表から好物のバナナやリンゴなど饅頭をもらいました。そして、河盛市長から付添いの堺市の係員に仙台市民の皆



浜子とのお別れの前日
昭和38年10月20日
堺市職員庁内広報誌『ひろば』より

様に対して「堺市民に代わっていつまでも大切に育ててください」と記されたメッセージが託られました。

私が、浜子、の飼育を担当していた当時は、担当の獣医師の先生（大阪府立大学獣医学部）のご紹介で、近隣の岬公園動物園に、浜子、の調教の仕方について教えていただきに通い、あれこれ、浜子、と苦労を共にしました。叱る時は徹底して叱り、それ以外では、本当に浜子の気持ちになりきって接するよう心がけました。その成果があつて、後ろ足立ち上がり、お座り、乱杭渡り、ハーモニカ吹き、唐傘回しなどたくさんの芸を覚えてくれました。

忘れもしないのは、浜子、が堺を発つて一六年経過した昭和五四年（一九七九年）、職場（西部公園事務所）の旅行で仙台を訪ね、仙台市八木山動物園（昭和四一年に名称変更）に、浜子、（現トシコ）に会いに行った時のことでした。浜子、は私を見つけると耳をバタバタさせながら象舎園のしきり近くまで来て鼻を伸ばし親愛の情を示してくれました。そして、かつて教えていた「返事！」と呼びかけると「キキイ」と答えてくれた時には思わず胸にジーンと熱いものがこみあげてきました。

一般的には、象は人間には聞こえない低周波音で会話をし、数年を経ても記憶力を持ち、知能に優れている動物とは聞いておりましたが、堺での生活のことを覚えていてくれたとは感動以外のなものでもなく、太い心の絆を感じました。

浜子、は、当年、歳をとって五六歳、人間でいえば九〇歳近くといわれておりますが、これほどの高齢でありながら元氣な姿を見せてくれるのは、仙台市の皆様に大事にお育ていただいたお陰であり、それに応えた、浜子、の頑張りのおかげであると思います。浜子、が元氣な姿を見せてくれている間に、再び堺と仙台の絆の、すずめ踊り、が紹介されてくるとは、正直なところ夢にも思っておりませんでした。今では、堺市民の一人としてこの絆の積み重ねを大変うれしく大事にしていきたいと願っております。